



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 uniwish5号(2012年9月)

佐賀県佐賀市水ヶ江4丁目2番2号
(電話・FAX)0952-28-2077
(業務時間)月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
<http://www.saga-unicef.jp/>



© UNICEF Video

ナイジェリア北部では清潔な水を手に入れることが難しい。人々は、毎日2時間かけて泥で濁った井戸水を汲みにくる。

アフリカ干ばつ:ナイジェリア

～危機にさらされている子どもたち～

【2012年8月28日 ナイジェリア発】

ユニセフは、ナイジェリア政府と協力して、病院や地域の中に、支援の拠点となる保健施設を設置。以前より多くの母親たちが、こうした施設を利用するようになっていきます。2012年に実施されたSMARTと呼ばれる調査は、全急性栄養不良率は6.4から13.1パーセントの間、重度の栄養不良率は0.7から2.2パーセントの間にあるとしています。

支援拠点の一つのカツィナ総合病院では、数人の乳児が、深刻な栄養不良で治療を受けています。この数は、雨期の始まりとともにさらに増えるものと見られています。深刻な栄養不良の子どもは、コレラやマラリアなどの疾患に罹りやすいのです。「こうした感染症は、脳に影響を与えることもあります。全般的な健康状態を悪化させ、呼吸器にも影響を及ぼすことがあります。しかし、ここで最も一般的に見られるのは、消化器系の疾患です」乳児の治療に当たっているハヤナ・モハメッド医師は、こう説明します。

ナイジェリアは、世界で最も乳児死亡率の高い国のひとつ。7人に1人が、5歳の誕生日を迎える前に命を落としています。こうした状況を少しでも改善させるため、ユニセフは、最も厳しい状況に置かれている子どもたちの元に専門家を派遣し、支援活動を強化しています。

入院や外来の患者で溢れかえるカツィナ総合病院。入院治療を受けている重度の急性栄養不良の子どもたちには、特別な食事が与えられ、治療が施されています。状態が安定し退院しても、「OTP」と呼ばれる8週間の“通院”を通じて、外来治療と経過観察が続けられます。OTPは、地域の中に設置された施設で行われます。この施設では、“通院”する子どもたちには、栄養の外来治療のみならず、必要に応じて、定期的な予防接種をはじめとする他の医療サービスも提供されます。

多くの人々が農業を営む北部では、そこに暮らす人々の多くは、行商のため、ニジェールをはじめ国境を接する国々との間を行き来します。しかし、そんな北部地域でも、宗教間の衝突が発生。教会や学校が襲われる状況も増えており、すでに厳しい状況に置かれていた何万もの人々の生活が脅かされています。広大な国土を抱えるナイジェリアには、それ故に、さまざまな面で、厳しい状況も存在します。病気や貧困、栄養不良により、すでに多くの人々が命を落としています。今年10月に期待されている穀物の収穫高は増加が見込まれているものの、乾燥しきったサヘル地域の他の国々と同様、ナイジェリアも予断を許さない状況に置かれています。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

(公財)日本ユニセフ協会では、ソマリアとその周辺国を含む「アフリカの角」地域と、アフリカ中・西部に位置するサヘル地域の子どもに対してユニセフが行う緊急援助を支援する『アフリカ干ばつ緊急募金』の受付を行っています。

シリア危機 子どもたちへの支援が急務 ～ユニセフヨルダン事務所の報告～

【2012年8月27日 アンマン発】



© UNICEF/NYHQ2012-0695/Romenzi

シリア情勢が深刻化する中、隣国ヨルダンに逃れてくる子どもたちの数は増える一方です。ユニセフは、こうした子どもたちに対する保健や保護、飲料水、衛生などの分野の支援活動のために必要な資金の援助を、国際社会に訴えています。

現在、ヨルダン北部に設置されたザータリ難民キャンプでの避難生活を強いられているシリア難民は約1万7,000人。その約半数は子どもたちです。この数は、日を迫うごと増え続けています。

特に先週末は、一晩で2000人もの人々が国境を超えたことが確認されています。この数は、それまでに24時間以内に確認された最大数より80%も多い人数でした。

「年末までには、ザータリ難民キャンプの人口は7万人に達すると見られています。」と語るのは、ユニセフヨルダン事務所のドミニク・ハイド代表。「こうした状況の中で、最も被害を受けるのは子どもたちです。ですから、私たちは“今”アクションを起こさなければなりません。私たちの活動を拡大するために、追加の資金が緊急に必要です」と訴えます。

酷暑にも関わらず、日差しを避ける場所も無いザータリ難民キャンプの環境は、とても厳しいものです。時おり起こる砂嵐は、キャンプのいたるところで砂埃を舞い上げています。

このキャンプで展開されている人道支援活動の中で、ユニセフは、安全な飲料水の供給と衛生環境の確保の分野で主導的な役割を担い、現在、難民一人当たり一日50リットルの水を給水車で配給しています。また、新たな難民の到着に備え、井戸の建設も進めています。トイレやシャワー、洗面台や洗い場などの新設も続けています。

こうした環境の中で子どもたちの数が増える、様々な感染症の発生のリスクも増してきます。ユニセフは、ヨルダン政府保健省や世界保健機関（WHO）と協力し、シリア国内の混乱の中で予定通りの予防接種を受ける事ができなかった5歳未満の子どもたちを対象にした予防接種活動を展開します。ユニセフは、今後（こうした一時的な展開だけでなく）、子どもたちが難民キャンプの中でも定期的に予防接種を受ける事ができる体制づくりも進めていきます。

ユニセフはまた、シリア国内の想像を絶する状況を経験したために特別なケアを必要としている子どもたちへの支援も始めています。



© UNICEF/NYHQ2012-0206/Romenzi

これまでに、“子どもに優しい空間”と呼ばれる、子どもたちが遊びや学びなど日常を取り戻し、必要に応じて専門的な心理的ケアを受ける事ができる場所を10箇所設置。また、シリアから逃れてくる際、親や家族から離れ離れになってしまった子どもたちの発見と保護にも取り組んでいます。

「シリア国内の悲惨な状況を逃れてきた子どもたちは、適切なケアが提供されないと、長期的に（精神的に）苦しむことになる可能性があります」「今現在、ザータリ難民キャンプで“子どもに優しい空間”が対応できるのは最大で2,500人でしかありません。一方、このキャンプの子どもの数は、この2-3ヵ月の間に、3万5,000人にまで増えることが予想されています。シリアの中で既に苦難を強いられてきた子どもたちを支える新たな“空間”や支援体制づくりが急務です」（ハイド代表）

【資料提供：日本ユニセフ協会】

東日本大震災

～ 福島の子ども保養プロジェクト ～

【2012年9月6日】

昨年の東日本大震災以降、福島では依然として多くの子どもたちが放射線による不安の中で生活しています。そうした中、福島大学災害復興研究所と福島県ユニセフ協会、そして福島県生活協同組合連合会では「福島の子ども保養プロジェクト」の取り組みを開始しています。このプロジェクトは、低線量地域への避難を望みながらも、諸事情によりそれが困難な現状にある子育て世代のニーズを把握して、身体的・心理的・金銭的な支援を行うものです。具体的には被ばく線量の少ない場所で一定期間過ごすことにより、物理的に被ばく線量を軽減すること。そして、野外で存分に遊ぶ機会を取り戻すことで、外遊びを制限されている子どもたちの心のケアを図る目的を持っています。県外での取り組みは春休みに神奈川県ユニセフ協会が主催した受入れ企画を第一歩として、この夏休みには、全国各地で18企画もの小学生を中心とした子どもたちの保養プロジェクトが実施されました。

ー海に山に…子どもたちは元気いっぱいー



波と戯れた後はビーチでの男女対抗のスイカ割り大会。

昨年夏頃から、全国のような支援団体やグループによって行われているこの保養プログラム。一年に一回、1週間程度でいいから放射線量の高い地域から離れられると身体的には効果があるとも言われており、夏休みの期間中、いくつもの保養プログラムをハシゴして、少しでも長く県外に滞在しようとする子どもも少なくありません。このプロジェクトに関わることによって、報道からは決して見えてこない福島の子どもたちがおかれている現実を、少しだけ知ることが出来たと思います。

神奈川県では、海岸での外遊びを中心とした三浦半島での保養プログラム(神奈川県生活協同組合連合会&生協実行委員会主催)と、南足柄の森林と相模湖のレジャー施設を利用した保養プログラム(東日本大震災避難者連帯事業神奈川実行委員会主催)の2企画が実施されました。神奈川県ユニセフ協会では、いずれも引率や健康管理など最も子どもたちに密着した役割を担っていましたので、猛暑の中、まさに体力勝負のボランティア！！といったカンジでした。

ひとりひとりに目を配りながら、でも、時には一緒に楽しむ目線も忘れずに子どもたちと過ごした2泊3日…。

6時前から起き出して早くも汗びっしょりになってサッカーボールを追いかける子どもたち、ライフセーバーのお兄さんに守られながら波と戯れる子どもたち、海岸でウニや貝殻集めに夢中になる子どもたち、スイカ割りの残りで仕掛けをつくりカブトムシをgetした子どももいました。

それぞれの夏休み…、福島に帰る日の朝、「まだ帰りたくない～！！」と大学生のお兄さんお姉さんとメッセージ交換する子どもたちの姿がとても印象的でした。



最終夜のプログラム、キャンドルファイヤー

※8/13-15 夏休み・福島の子ども保養プロジェクトin神奈川
小学3年～6年生29名参加

※8/21-23 福島の子ども保養プロジェクト おいでよ！かながわ
小学3年～6年生76名参加

※このプロジェクトは、公益財団法人日本ユニセフ協会による支援と、日本生活協同組合連合会の会員生協による募金、その他団体・個人の募金によって支えられています。

【資料提供：神奈川県ユニセフ協会 事務局長 谷杉佐奈美】



相模湖プレジャーフォレストにて出発前の集合写真

- 6月22日（金） ユニセフ出前授業 上峰町立上峰小学校1年～6年
「平和についてかんがえよう」
- 6月26日（火） コープさが贈呈式 アバンセ（佐賀市どん3の森）
2012年度第22回通常総代会において「ユニセフ・ネパール指定募金」
163,525円を佐賀県ユニセフ協会太田記代子常務理事に贈呈。
- 6月30日（土） ユニセフ チャリティーコンサート
「作曲家 林冬樹の世界」
浪漫座（佐賀市）
- 7月12日（木） 佐賀市立赤松小学校募金贈呈式
「アフリカ干ばつ緊急支援」に
18,230円の募金。
- 8月1日（水） ユニセフ出前授業
ドリームパーク千代田東部小学校
ゆめ組（1年～5年、25人）
「水とトイレと子どものいのち」
- 8月2日（木） 佐賀市立城西中学校募金贈呈式
「東日本大震災復興支援」に
10,777円の募金。
- 8月2日（木） ユニセフパネル展&ユニセフ・カードとギフト頒布
佐賀県生活協同組合連合『ピースアクション2012』会場 アバンセ
ユニセフ・カードとギフト頒布ご協力は7,580円、ユニセフ募金へのご協力は4,820円。
- 7月28日（土）～8月5日（日）
TAP PROJECT JAPAN ～きれいな水を、世界の子どもに～
（詳細はP. 8）
- 8月21日（火） ユニセフ出前授業
白石町立白石小学校1年～6年 「平和についてかんがえよう」
- 8月22日（水） ユニセフ出前授業
ドリームパーク千代田東部小学校
ほし組（1年～6年、16人）
「水とトイレと子どものいのち」



～活動詳報～



- 7月29日（日） ユニセフ入門講座 TOJIN茶屋（佐賀市唐人町）
“Find something you can do for children!”（子どもたちのためにできることを見つけよう!）



ユニセフに興味を持って下さる方を対象に、ユニセフ入門講座を行いました。外国人の方にも参加いただくために、今回は初めて英語での講座を実施。当日は、日本人の方も外国人の方も、楽しくユニセフについて考えていただきました。

ユニセフの活動や、日常生活の中で皆さんにできるボランティアなどについてお話をさせていただき、また、「ユニセフと聞いて思い浮かぶ言葉は？」「その中でもっと深く知りたいこと、興味のあることは？」といったテーマでワークショップも行いました。

参加者の方からは、「ボランティアとしてどのように貢献ができるか、もっと考えたい。」
「次回も是非こういったセミナーを実施してほしい。」といった声が聞かれました。

【振り返りシートより】

- ◎5才未満児死亡率の高い国がこれだけたくさんあることに驚きました。
- ◎ユニセフが何の活動をしているか、よくわからないでいました。活動がわかったので、自分にできる事をしたいと思います。私自身も、これから、少しでも活動して、何か提案できるようになりたいと思います。
- ◎ユニセフはもっと遠いものかと思っていたけど、自分たちでも身近にできることがあると分かったので参加できて良かったです。ありがとうございました。

- 8月9日（木）～12日（日）第21回佐賀市平和展 ～語り継ごう、平和の尊さ～
佐賀市立図書館（佐賀市どん3の森）
旧ユーゴスラビアの子ども絵「目をとじれば平和が見える」&地雷展「地雷ってどんなもの？」



期間中、会場には約1,900人の皆様のご来場があり、「Peace Tree 平和のメッセージ」には、ご覧いただいた皆様からたくさんのメッセージが寄せられました。

【Peace Tree平和のメッセージより】

- ◎ばくはつやせんそうがこんなにこわいとはしりませんでした。ひがいにあった人たちのために、なにかやりたいです。私はせんそうがない平和なみらいをつくりたいです。（9歳）
- ◎私は戦争がとてもこわいと思いました。ばくだんでたくさんの人の命をうばうからです。それで、どの世界にも戦争がおこらないような平和な国になってほしいと思いました。戦争というのは、人とかかわりからできていくので、もっと人を大切にしたいと思います。（10歳）
- ◎すごく怖いものかと思っていたけど、私たちの身近に戦争というものがあると思います。今の日本は、とても平和だけど、私たちが平和にくらしている今も、ほかの国は戦争があっていると思うので、はやくなくなしてほしいです。（12歳）
- ◎私たちは、たまたま、平和な時代、平和な国に生まれただけ。ユーゴスラビアのこの子たちに、何の罪があるのでしょうか。彼らに、平和な未来が訪れることを、願ってやみません。子どもたちの叫び、願い、祈りに胸をつかれました。（56歳）



ユニセフって なあに？



ユニセフが活動する理由 ～水とトイレがない…～

世界では9億人の人々が、川や池などの安全ではない水を使って生活をしています。また、25億人の人びとはトイレを使えない生活をしています。安全な水を使える人の割合は少しずつ増えていますが、トイレなどの衛生施設を使える人の割合はへってきているのです。安全な水が手に入らない、トイレがない、ということが、せきり、コレラ、寄生虫病などの病気が広まってしまう原因にもなっています。



© UNICEF/NYHQ2006-0149/Kamber

そして、川や池から水をくんでくるのは、多くが子どもたちの仕事です。家族は畑しごとや家の仕事に忙しく、子どもたちも水くみやまきひろいなどの手伝いをするのは、あたりまえのことなのです。

けれども、水はとても重いうえに、川や池まで何キロもはなれていることもあります。子どもたちは一日中水くみをして、学校に行く時間がないこともあるのです。



© UNICEF/NYHQ2007-1893/Noorani

洗濯したり、体を洗ったり、家畜が水浴びをしたり、トイレに使われてしまっていることもあるよ。目に見えないばいきんもたくさんいるね。

毎日、家から離れたこの水場まで何度も通うのは大変な仕事だよ。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください

☆公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります

日本ユニセフ協会賛助会員とは

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

賛助会員の種類と期間

三種類の会員があります。

- | | | |
|-----------|-------------------------------|--|
| 1. 一般賛助会員 | 1口 5,000円…個人の方が対象 | 有効期限はどちらも入会月から1年間で、退会のお申し出をいただくまで継続。
期間は、1年ごとの更新。 |
| 2. 学生賛助会員 | 1口 2,000円…学生の方が対象 | |
| 3. 団体賛助会員 | 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 | |



ご支援
ありがとうございます

コープさが生活協同組合様 みねまつ歯科様 国際ソロプチミスト佐賀西部様
旅館あけぼの様 ようどう館大和校様 佐賀ギター音楽院様 赤松小学校様
レストランカンフォアラ様 城西中学校生徒会様

春日小学校様 大塚製薬佐賀工場様 佐賀新聞社総務課様 杉の子文庫様
株式会社サニーハウス営業本部様 門司歯科医院様 佐賀リハビリテーション病院様
ヘルスランチあららぎ様 千代田中部小学校PTA様 本庄公民館様 さが市民活動プラザ様
佐賀大学医学部看護学科様 カイセイ薬局伊万里駅前店様 副島病院様 西与賀公民館様
越前市武生西公民館ピーターパンクラブ様 (独)高齡・障害・求職者雇用支援機構様
佐賀県高等学校家庭クラブ連盟様 株式会社佐賀共栄銀行秘書グループ様
グランデはがくれ様 さがんれすとらん志乃様 ピサロ様 ホテルニューオータニ佐賀様
アパホテル様 (2012年6月1日～8月31日)

- ★ いろいろな形でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



これからの予定 (9月3日現在)

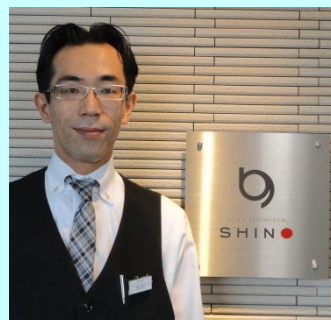
- 9月17日 (月・祝日) ★同封のチラシをご覧ください。
さが国際ふれあいフェスタ2012 (佐賀市アバンセ)
ユニセフコーナー「サヘル地域の子どもたちは、今」
①パネル展「気候変動と子どもたち」
～アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使のブルキナファソ視察報告～
②JICA青年海外協力隊OB本村大輔氏による講演会「最新！ブルキナファソ レポート」
- 10月11日 (木)～17日 (水) ★同封のチラシをご覧ください。
「子どもたちの3・11」ユニセフ東日本大震災報告写真展(佐賀市立図書館)
- 10月14日 (日) ★同封のチラシをご覧ください。
ユニセフのつどい～アフリカを知る・アフリカに学ぶ～ (佐賀市立図書館)
①ジャーナリスト大津司郎氏による講演会
「アフリカ取材から見えてきたこと、今伝えられること」
②JICA青年海外協力隊アフリカ隊員OBとの交流会～アフリカ近っとツアー～
- 10月15日 (月) より 世界手洗いの日プロジェクト スタート
ルー大柴氏来佐 県内の小学校にて手洗いダンスによる啓発活動 (現在調整中)

※その他のイベント等は、佐賀県ユニセフ協会HPにてご覧いただけます。



の 仲間たち!

TAP PROJECT JAPAN 2012 に ご参加いただいた皆さま



グランデはがくれ
レストラン主任 山口浩志 様
「毎月定額をユニセフに募金しているんです、というお客様も今回TAPの募金にご協力くださいます、日頃から地道にされている方がいらっしゃるのだと感心いたしました。」

さがんれすとらん志乃
真島恵祐 様
「私たちは普段通りお水をお出ししているだけでしたが、お客様がそれに対して気付いてくださり募金にご協力くださいました。」

ピサロ
店長 沖津健 様
「こういったプロジェクトがもっと普及してほしいと思います。飲食店の皆さん、協力の輪を広げていきましょう。」



※他にも、ホテルニューオータニ佐賀様、旅館あけぼの様、アパホテル様にご協力いただきました。今年度は7月28日から8月5日まで実施されました。皆さまのご協力のもと集められた募金はアフリカのマダガスカル共和国に送られ、農村部の小学校の井戸やトイレの設置に使われます。誠にありがとうございました。

※TAP PROJECTは、レストランやカフェ等で提供されるお水やお茶に対して任意での募金をしていただくという活動です。具体的には、レストラン内のテーブルに用意されたカードでお客様に趣旨をご理解いただき、チップの感覚で任意の金額を置いていただきます。また、一部店舗ではカウンターなどに設置された募金箱による募金も実施致しました。2007年にニューヨークで始まり、世界各地で展開しています。

(取材：シライ)

★ユニセフ・カードとギフト カタログ秋・冬号2012が届きました★

年賀状やクリスマスカードなど、
今回も豊富な品揃えです。
カタログをご希望の方は、
佐賀県ユニセフ協会までご連絡ください。

